

第 40 回「秋田県内家計の消費動向調査」結果 (令和 3 年 6 月調査)

～ 消費マインドの改善は足踏み。先行きも横這いの見通し ～

【調査の要旨】

- **消費指数**は▲92.3（前期比 0.1 ポイント上昇）と 4 期連続での改善ながら、前回調査とほぼ同水準となった。内訳をみると、いずれも小幅な変化ながら、景気判断指数が▲53.2（同 0.4 ポイント下落）と 4 期ぶりの悪化となった一方、暮らし向き判断指数は▲39.1（同 0.5 ポイント上昇）と 4 期連続で改善した。
- **今後の見通し**は▲92.7（今回調査比 0.4 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数では▲50.3（同 2.9 ポイント上昇）と改善が見込まれる一方、暮らし向き判断指数では▲42.4（同 3.3 ポイント下落）と悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向は、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「住宅リフォーム」では 3.2%（前期比±0.0 ポイント）、「海外旅行」では 0.0%（同±0.0 ポイント）と横這いとなり、「自家用車の購入」では 2.7%（同 3.2 ポイント低下）と 5 期ぶりに低下、「住宅、土地の購入」では 1.8%（同 0.5 ポイント低下）と 3 期ぶりに低下と、2 項目では低下となった。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 407 千円となり、前年同期比で 5 千円の減少となった。支出面では支出合計が 398 千円で前年同期比 38 千円増額となった。この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 97.9%（前年同期比 10.3 ポイント上昇）となった。
- **新型コロナウイルス感染症の生活への影響**について、今から 1 年前（新型コロナウイルス感染拡大初期）と現在を比較して生活必需品の購入や入手頻度の変化について尋ねたところ、「お店に買い物に行く」では「以前よりも減った」の割合が 59.6%と 6 割近くを占めた。
また、インターネットショッピングによる購入金額が増えたものについては、「衣料品」の割合が 32.1%で最も高くなった。

令和 3 年 6 月

株式会社フィデア情報総研

目次

I. 消費指数	1
II. 消費指数（内訳）	3
1. 景気判断	3
(1) 景気判断の概況	3
(2) 景気判断の推移	4
2. 暮らし向き判断	5
(1) 暮らし向き判断の概況	5
(2) 暮らし向き判断の推移	6
III. 支出意向	7
1. 支出意向 D I の推移	7
2. 支出意向（大きな買い物）の推移	8
IV. 家計簿調査	9
V. 特別調査	11
1. 新型コロナウイルス感染症の生活への影響について	11
(1) 生活必需品の購入や入手頻度の変化	11
(2) インターネットショッピングによる購入金額の変化	12
VI. 調査の概要	13

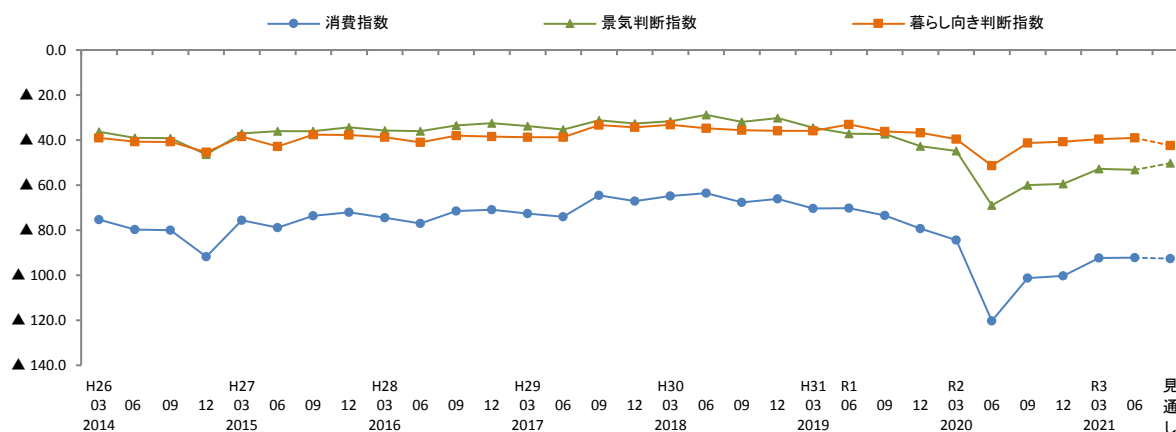
I. 消費指数

～消費マインドの改善は足踏み。先行きも横這いの見通し～

消費指数は▲92.3（前期比 0.1 ポイント上昇）と 4 期連続での改善ながら、前回調査とほぼ同水準となった。内訳をみると、いずれも小幅な変化ながら、景気判断指数が▲53.2（同 0.4 ポイント下落）と 4 期ぶりの悪化となった一方、暮らし向き判断指数は▲39.1（同 0.5 ポイント上昇）と 4 期連続で改善した。

なお、今後の見通しについては▲92.7（今回調査比 0.4 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数では▲50.3（同 2.9 ポイント上昇）と改善が見込まれる一方、暮らし向き判断指数では▲42.4（同 3.3 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 1 消費指数の推移



調査時期		消費指数		
			景気判断	暮らし向き判断
2020年	6月	▲ 120.4	▲ 69.0	▲ 51.4
	9月	▲ 101.3	▲ 60.0	▲ 41.3
	12月	▲ 100.3	▲ 59.5	▲ 40.8
2021年	3月	▲ 92.4	▲ 52.8	▲ 39.6
	6月	▲ 92.3	▲ 53.2	▲ 39.1
	(前期比)	(0.1)	(▲ 0.4)	(0.5)
	(前年同期比)	(28.1)	(15.8)	(12.3)
2021年	見通し	▲ 92.7	▲ 50.3	▲ 42.4
	(今回調査比)	(▲ 0.4)	(2.9)	(▲ 3.3)

【指数の見方】

消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は 200～▲200 の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

図表2 消費指数（内訳）の推移

消費指数

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
			①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり	
2017年	3月	▲72.6	▲33.8	▲9.3	▲5.9	▲18.6	▲38.8	▲7.9	▲11.4	▲7.3	▲12.2
	6月	▲74.1	▲35.3	▲9.4	▲4.4	▲21.5	▲38.8	▲7.8	▲11.4	▲7.0	▲12.6
	9月	▲64.6	▲31.2	▲8.5	▲4.2	▲18.5	▲33.4	▲7.6	▲10.4	▲4.5	▲10.9
	12月	▲67.1	▲32.7	▲8.7	▲4.0	▲20.0	▲34.4	▲7.1	▲10.1	▲5.9	▲11.3
2018年	3月	▲64.9	▲31.7	▲7.6	▲3.1	▲21.0	▲33.2	▲7.1	▲9.6	▲5.5	▲11.0
	6月	▲63.6	▲28.8	▲6.1	▲1.8	▲20.9	▲34.8	▲7.1	▲10.1	▲5.6	▲12.0
	9月	▲67.7	▲32.0	▲8.6	▲3.7	▲19.7	▲35.7	▲8.2	▲10.6	▲5.5	▲11.4
	12月	▲66.2	▲30.3	▲7.7	▲2.4	▲20.2	▲35.9	▲7.8	▲10.6	▲5.3	▲12.2
2019年	3月	▲70.4	▲34.5	▲8.7	▲3.5	▲22.3	▲35.9	▲8.1	▲10.4	▲6.1	▲11.3
	6月	▲70.3	▲37.2	▲10.1	▲4.5	▲22.6	▲33.1	▲7.8	▲10.1	▲4.5	▲10.7
	9月	▲73.5	▲37.3	▲9.9	▲5.0	▲22.4	▲36.2	▲7.5	▲11.1	▲5.8	▲11.8
	12月	▲79.4	▲42.7	▲11.6	▲7.8	▲23.3	▲36.7	▲8.8	▲11.1	▲5.7	▲11.1
2020年	3月	▲84.5	▲44.9	▲15.5	▲9.1	▲20.3	▲39.6	▲7.9	▲11.5	▲7.8	▲12.4
	6月	▲120.4	▲69.0	▲24.1	▲22.1	▲22.8	▲51.4	▲12.1	▲13.5	▲11.9	▲13.9
	9月	▲101.3	▲60.0	▲20.2	▲18.9	▲20.9	▲41.3	▲9.4	▲10.6	▲8.9	▲12.4
	12月	▲100.3	▲59.5	▲21.0	▲19.9	▲18.6	▲40.8	▲10.2	▲10.8	▲7.8	▲12.0
2021年	3月	▲92.4	▲52.8	▲17.1	▲15.9	▲19.8	▲39.6	▲9.4	▲10.4	▲7.9	▲11.9
	6月	▲92.3	▲53.2	▲16.4	▲16.1	▲20.7	▲39.1	▲9.1	▲9.6	▲8.7	▲11.7
	9月(見通し)	▲92.7	▲50.3	▲15.5	▲14.3	▲20.5	▲42.4	▲10.1	▲10.5	▲9.6	▲12.2

(前期差)

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
			①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり	
2017年	3月	▲1.6	▲1.3	▲0.7	▲0.8	0.2	▲0.3	0.1	0.0	▲0.4	0.0
	6月	▲1.5	▲1.5	▲0.1	1.5	▲2.9	0.0	0.1	0.0	0.3	▲0.4
	9月	9.5	4.1	0.9	0.2	3.0	5.4	0.2	1.0	2.5	1.7
	12月	▲2.5	▲1.5	▲0.2	0.2	▲1.5	▲1.0	0.5	0.3	▲1.4	▲0.4
2018年	3月	2.2	1.0	1.1	0.9	▲1.0	1.2	0.0	0.5	0.4	0.3
	6月	1.3	2.9	1.5	1.3	0.1	▲1.6	0.0	▲0.5	▲0.1	▲1.0
	9月	▲4.1	▲3.2	▲2.5	▲1.9	1.2	▲0.9	▲1.1	▲0.5	0.1	0.6
	12月	1.5	1.7	0.9	1.3	▲0.5	▲0.2	0.4	0.0	0.2	▲0.8
2019年	3月	▲4.2	▲4.2	▲1.0	▲1.1	▲2.1	0.0	▲0.3	0.2	▲0.8	0.9
	6月	0.1	▲2.7	▲1.4	▲1.0	▲0.3	2.8	0.3	0.3	1.6	0.6
	9月	▲3.2	▲0.1	0.2	▲0.5	0.2	▲3.1	0.3	▲1.0	▲1.3	▲1.1
	12月	▲5.9	▲5.4	▲1.7	▲2.8	▲0.9	▲0.5	▲1.3	0.0	0.1	0.7
2020年	3月	▲5.1	▲2.2	▲3.9	▲1.3	3.0	▲2.9	0.9	▲0.4	▲2.1	▲1.3
	6月	▲35.9	▲24.1	▲8.6	▲13.0	▲2.5	▲11.8	▲4.2	▲2.0	▲4.1	▲1.5
	9月	19.1	9.0	3.9	3.2	1.9	10.1	2.7	2.9	3.0	1.5
	12月	1.0	0.5	▲0.8	▲1.0	2.3	0.5	▲0.8	▲0.2	1.1	0.4
2021年	3月	7.9	6.7	3.9	4.0	▲1.2	1.2	0.8	0.4	▲0.1	0.1
	6月	0.1	▲0.4	0.7	▲0.2	▲0.9	0.5	0.3	0.8	▲0.8	0.2
	9月(見通し)	▲0.4	2.9	0.9	1.8	0.2	▲3.3	▲1.0	▲0.9	▲0.9	▲0.5

(前年同期差)

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
			①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり	
2017年	3月	1.9	2.0	0.7	0.9	0.4	▲0.1	0.8	▲0.9	0.3	▲0.3
	6月	3.0	0.8	1.1	1.6	▲1.9	2.2	0.9	1.0	0.4	▲0.1
	9月	6.9	2.3	1.0	1.1	0.2	4.6	0.6	0.7	2.0	1.3
	12月	3.9	▲0.2	▲0.1	1.1	▲1.2	4.1	0.9	1.3	1.0	0.9
2018年	3月	7.7	2.1	1.7	2.8	▲2.4	5.6	0.8	1.8	1.8	1.2
	6月	10.5	6.5	3.3	2.6	0.6	4.0	0.7	1.3	1.4	0.6
	9月	▲3.1	▲0.8	▲0.1	0.5	▲1.2	▲2.3	▲0.6	▲0.2	▲1.0	▲0.5
	12月	0.9	2.4	1.0	1.6	▲0.2	▲1.5	▲0.7	▲0.5	0.6	▲0.9
2019年	3月	▲5.5	▲2.8	▲1.1	▲0.4	▲1.3	▲2.7	▲1.0	▲0.8	▲0.6	▲0.3
	6月	▲6.7	▲8.4	▲4.0	▲2.7	▲1.7	1.7	▲0.7	0.0	1.1	1.3
	9月	▲5.8	▲5.3	▲1.3	▲1.3	▲2.7	▲0.5	0.7	▲0.5	▲0.3	▲0.4
	12月	▲13.2	▲12.4	▲3.9	▲5.4	▲3.1	▲0.8	▲1.0	▲0.5	▲0.4	1.1
2020年	3月	▲14.1	▲10.4	▲6.8	▲5.6	2.0	▲3.7	0.2	▲1.1	▲1.7	▲1.1
	6月	▲50.1	▲31.8	▲14.0	▲17.6	▲0.2	▲18.3	▲4.3	▲3.4	▲7.4	▲3.2
	9月	▲27.8	▲22.7	▲10.3	▲13.9	1.5	▲5.1	▲1.9	0.5	▲3.1	▲0.6
	12月	▲20.9	▲16.8	▲9.4	▲12.1	4.7	▲4.1	▲1.4	0.3	▲2.1	▲0.9
2021年	3月	▲7.9	▲7.9	▲1.6	▲6.8	0.5	0.0	▲1.5	1.1	▲0.1	0.5
	6月	28.1	15.8	7.7	6.0	2.1	12.3	3.0	3.9	3.2	2.2
	9月(見通し)	8.6	9.7	4.7	4.6	0.4	▲1.1	▲0.7	0.1	▲0.7	0.2

II. 消費指数（内訳）

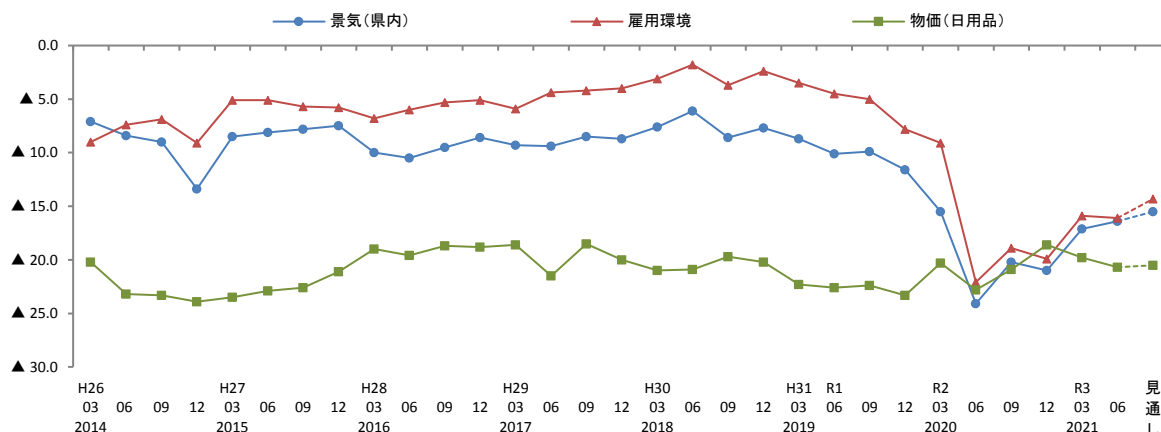
1. 景気判断

(1) 景気判断の概況

景気判断指数は▲53.2（前期比 0.4 ポイント下落）と小幅ながら 4 期ぶりの悪化となった。指数を構成する個別指数でみると、「景気（県内）」が改善した一方、「雇用環境」と「物価（日用品）」は悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲50.3（今回調査比 2.9 ポイント上昇）と改善が見込まれている。個別指数ではすべての項目で改善が見込まれており、「景気（県内）」は▲15.5（同 0.9 ポイント上昇）、「雇用環境」は▲14.3（同 1.8 ポイント上昇）、「物価（日用品）」は▲20.5（同 0.2 ポイント上昇）となっている。

図表 3 景気判断指数（内訳）の推移



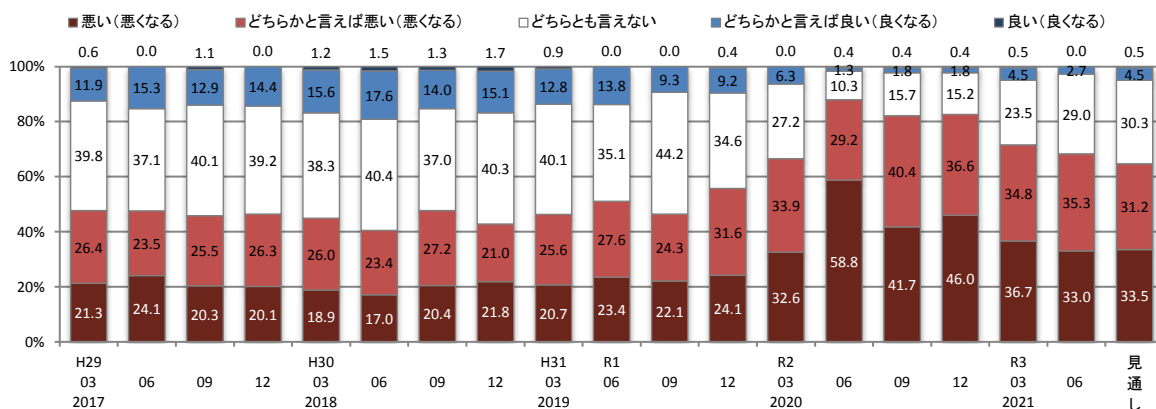
調査時期		景気判断指数			
			景気(県内)	雇用環境	物価(日用品)
2020年	6月	▲ 69.0	▲ 24.1	▲ 22.1	▲ 22.8
	9月	▲ 60.0	▲ 20.2	▲ 18.9	▲ 20.9
	12月	▲ 59.5	▲ 21.0	▲ 19.9	▲ 18.6
2021年	3月	▲ 52.8	▲ 17.1	▲ 15.9	▲ 19.8
	6月	▲ 53.2	▲ 16.4	▲ 16.1	▲ 20.7
	(前期比)	(▲ 0.4)	(0.7)	(▲ 0.2)	(▲ 0.9)
		(前年同期比)	(15.8)	(7.7)	(2.1)
2021年	見通し	▲ 50.3	▲ 15.5	▲ 14.3	▲ 20.5
	(今回調査比)	(2.9)	(0.9)	(1.8)	(0.2)

【指数の見方】

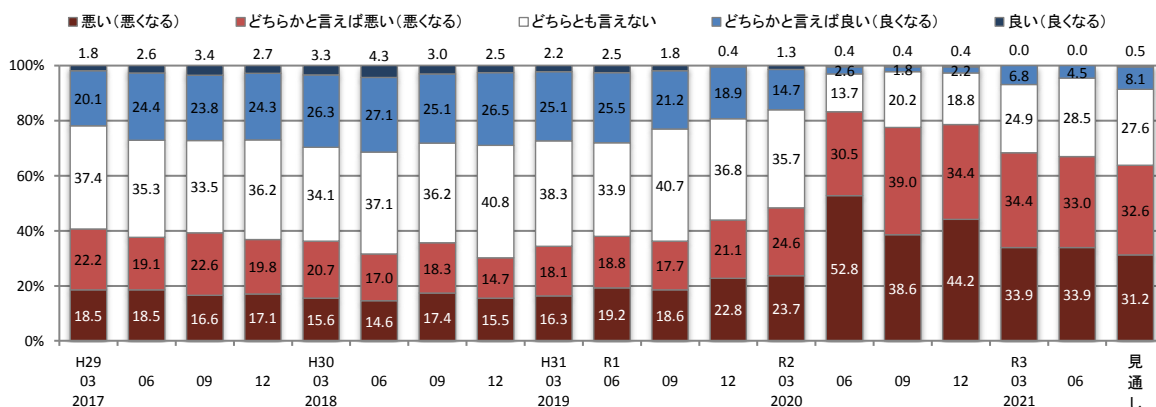
景気判断指数は景気（県内）、雇用環境、物価（日用品）の3項目の合計からなり、値は 100～▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば県内景気は高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 景気判断の推移

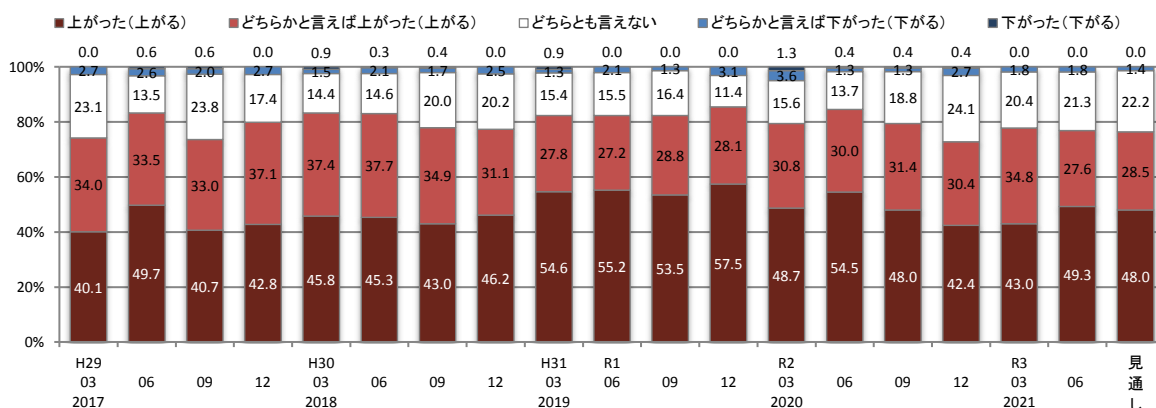
① 景気（県内）



② 雇用環境



③ 物価（日用品）



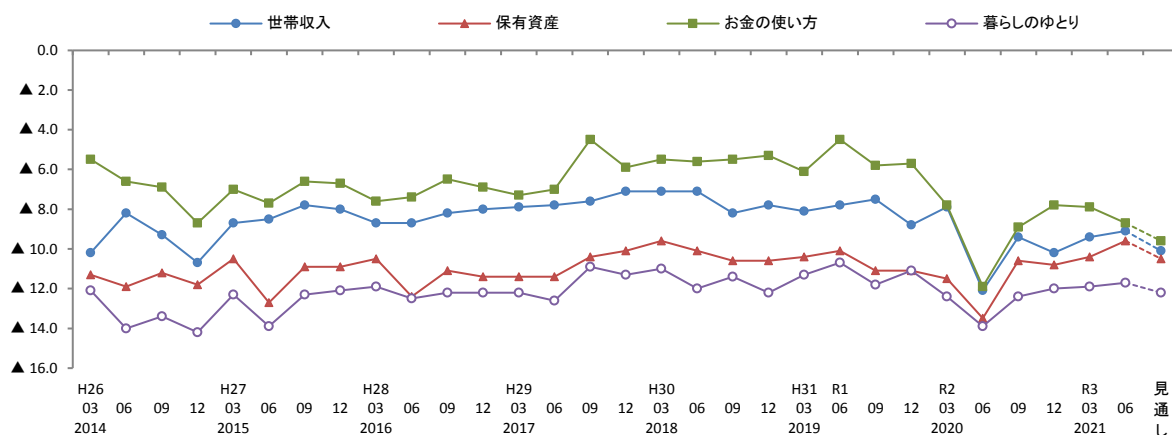
2. 暮らし向き判断

(1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲39.1（前期比 0.5 ポイント上昇）と小幅ながら 4 期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「お金の使い方」が悪化となった一方、「世帯収入」「保有資産」「暮らしのゆとり」はいずれも改善となった。

なお、今後の見通しについては▲42.4（今回調査比 3.3 ポイント下落）と悪化の見通しとなっている。個別指数はすべての項目で悪化が見込まれており、「世帯収入」が▲10.1（同 1.0 ポイント下落）、「保有資産」が▲10.5（同 0.9 ポイント下落）、「お金の使い方」が▲9.6（同 0.9 ポイント下落）、「暮らしのゆとり」が▲12.2（同 0.5 ポイント下落）と、すべての項目で悪化が見込まれている。

図表 4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



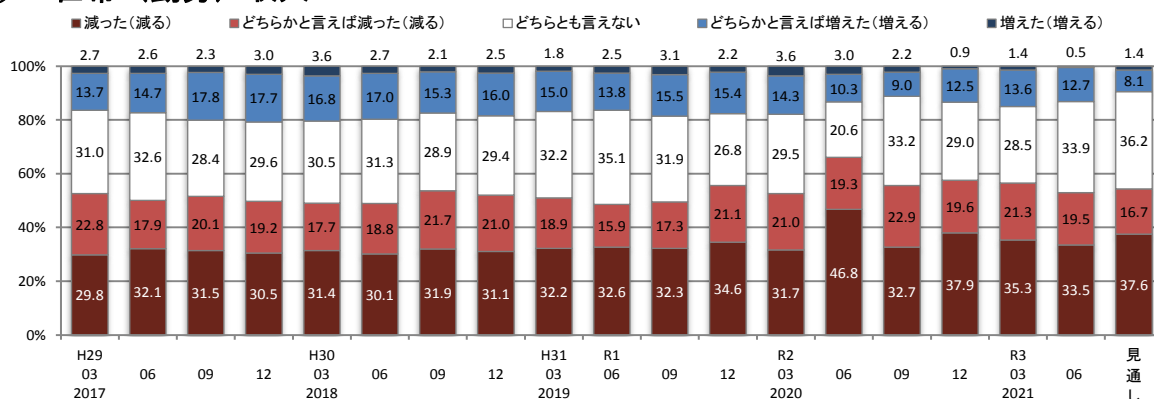
調査時期		暮らし向き判断指数				
			世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり
2020年	6月	▲ 51.4	▲ 12.1	▲ 13.5	▲ 11.9	▲ 13.9
	9月	▲ 41.3	▲ 9.4	▲ 10.6	▲ 8.9	▲ 12.4
	12月	▲ 40.8	▲ 10.2	▲ 10.8	▲ 7.8	▲ 12.0
2021年	3月	▲ 39.6	▲ 9.4	▲ 10.4	▲ 7.9	▲ 11.9
	6月	▲ 39.1	▲ 9.1	▲ 9.6	▲ 8.7	▲ 11.7
	(前期比)	(0.5)	(0.3)	(0.8)	(▲ 0.8)	(0.2)
	(前年同期比)	(12.3)	(3.0)	(3.9)	(3.2)	(2.2)
2021年	見通し	▲ 42.4	▲ 10.1	▲ 10.5	▲ 9.6	▲ 12.2
	(今回調査比)	(▲ 3.3)	(▲ 1.0)	(▲ 0.9)	(▲ 0.9)	(▲ 0.5)

【指数の見方】

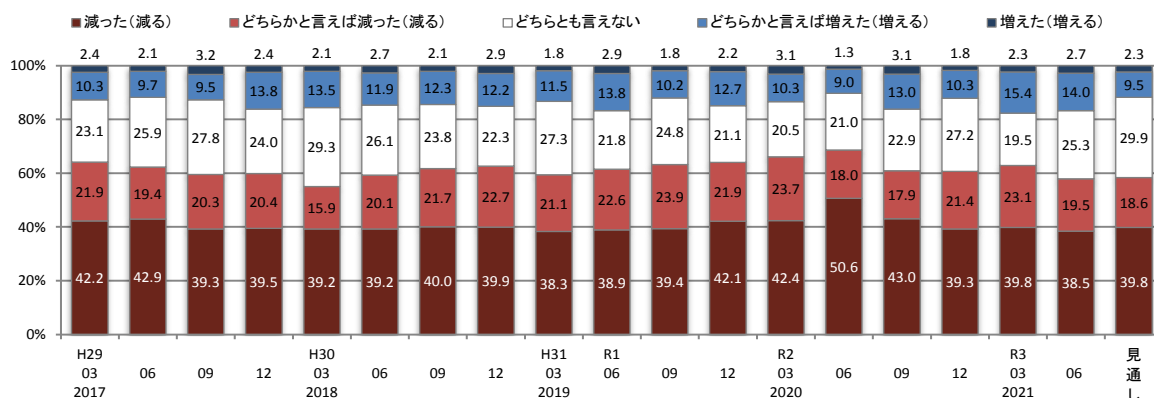
暮らし向き指数は世帯収入、保有資産、お金の使い方、暮らしのゆとりの4項目の合計からなり、値は 100 ～▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば暮らし向きは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 暮らし向き判断の推移

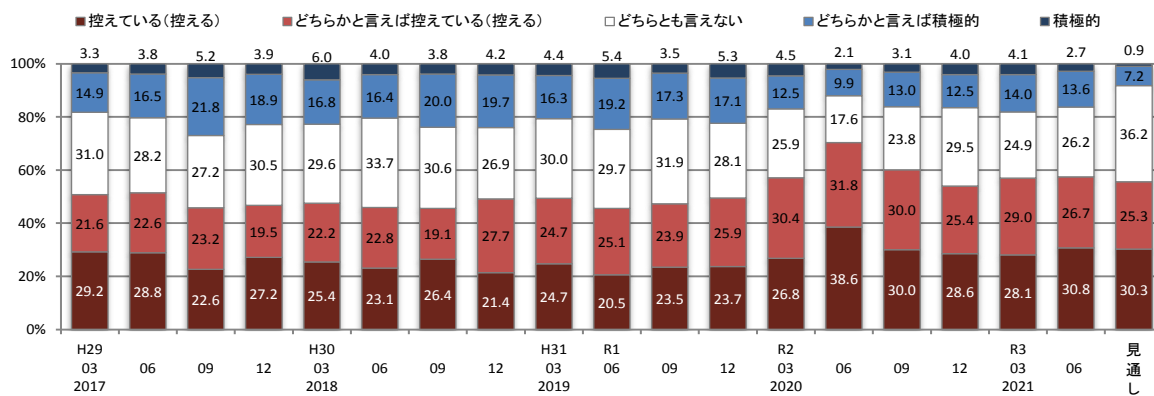
① 世帯（勤労）収入



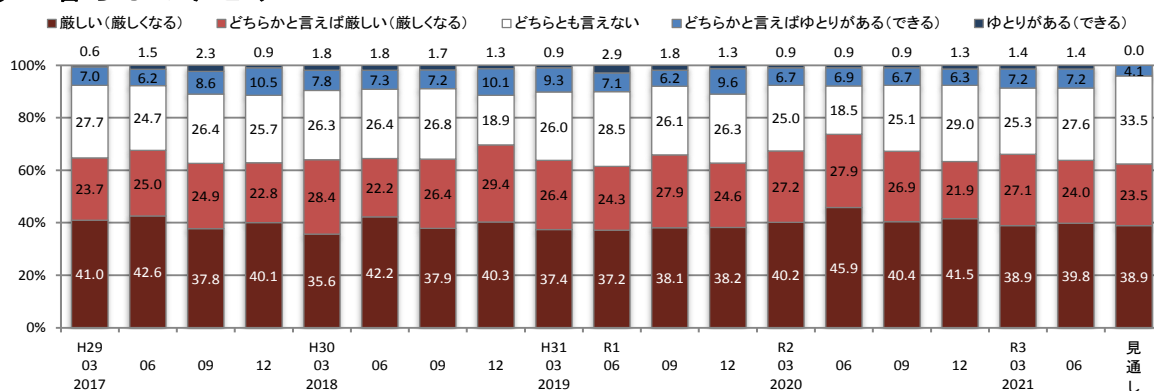
② 保有資産



③ お金の使い方



④ 暮らしのゆとり



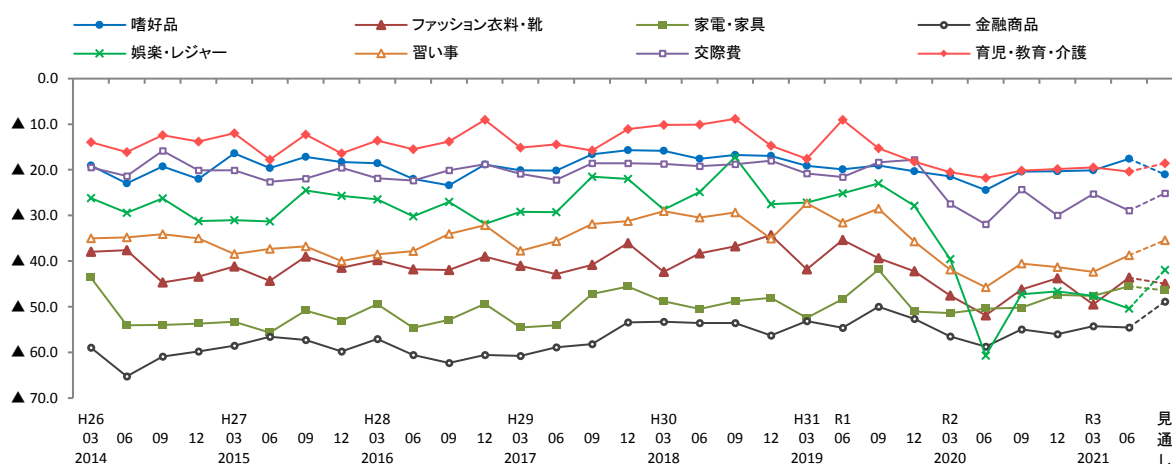
III. 支出意向

1. 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は▲37.5（前期比0.8ポイント上昇）と3期ぶりに改善した。支出意向DIを構成する8つの項目でみると、「交際費」や「娯楽・レジャー」など4項目で悪化となった一方、「ファッション・衣料品」や「習い事」など4項目で改善となった。

なお、今後の見通しについては▲35.3（今回調査比2.2ポイント上昇）と改善が見込まれている。8つの項目でみると、「嗜好品」など3項目で悪化が見込まれる一方、「娯楽・レジャー」や「金融商品」など5項目では改善の見通しとなっている。

図表5 支出意向DIの推移



調査時期	支出意向DI								
	平均値	嗜好品	ファッション・衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽・レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護
2020年 6月	▲43.2	▲24.5	▲51.9	▲50.5	▲58.8	▲60.8	▲45.7	▲32.0	▲21.8
9月	▲38.0	▲20.4	▲46.2	▲50.2	▲55.0	▲47.3	▲40.6	▲24.3	▲20.2
12月	▲38.2	▲20.4	▲43.8	▲47.4	▲56.1	▲46.7	▲41.3	▲30.0	▲19.9
2021年 3月	▲38.3	▲20.1	▲49.6	▲47.6	▲54.3	▲47.6	▲42.4	▲25.3	▲19.5
6月	▲37.5	▲17.6	▲43.7	▲45.5	▲54.6	▲50.4	▲38.7	▲29.0	▲20.4
(前期比)	(0.8)	(2.5)	(5.9)	(2.1)	(▲0.3)	(▲2.8)	(3.7)	(▲3.7)	(▲0.9)
(前年同期比)	(5.7)	(6.9)	(8.3)	(5.0)	(4.2)	(10.4)	(7.0)	(3.0)	(1.4)
2021年 見通し	▲35.3	▲21.1	▲45.0	▲46.5	▲48.9	▲42.0	▲35.5	▲25.2	▲18.6
(今回調査比)	(2.2)	(▲3.5)	(▲1.3)	(▲1.0)	(5.7)	(8.5)	(3.3)	(3.8)	(1.9)

【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

例) 嗜好品DI値

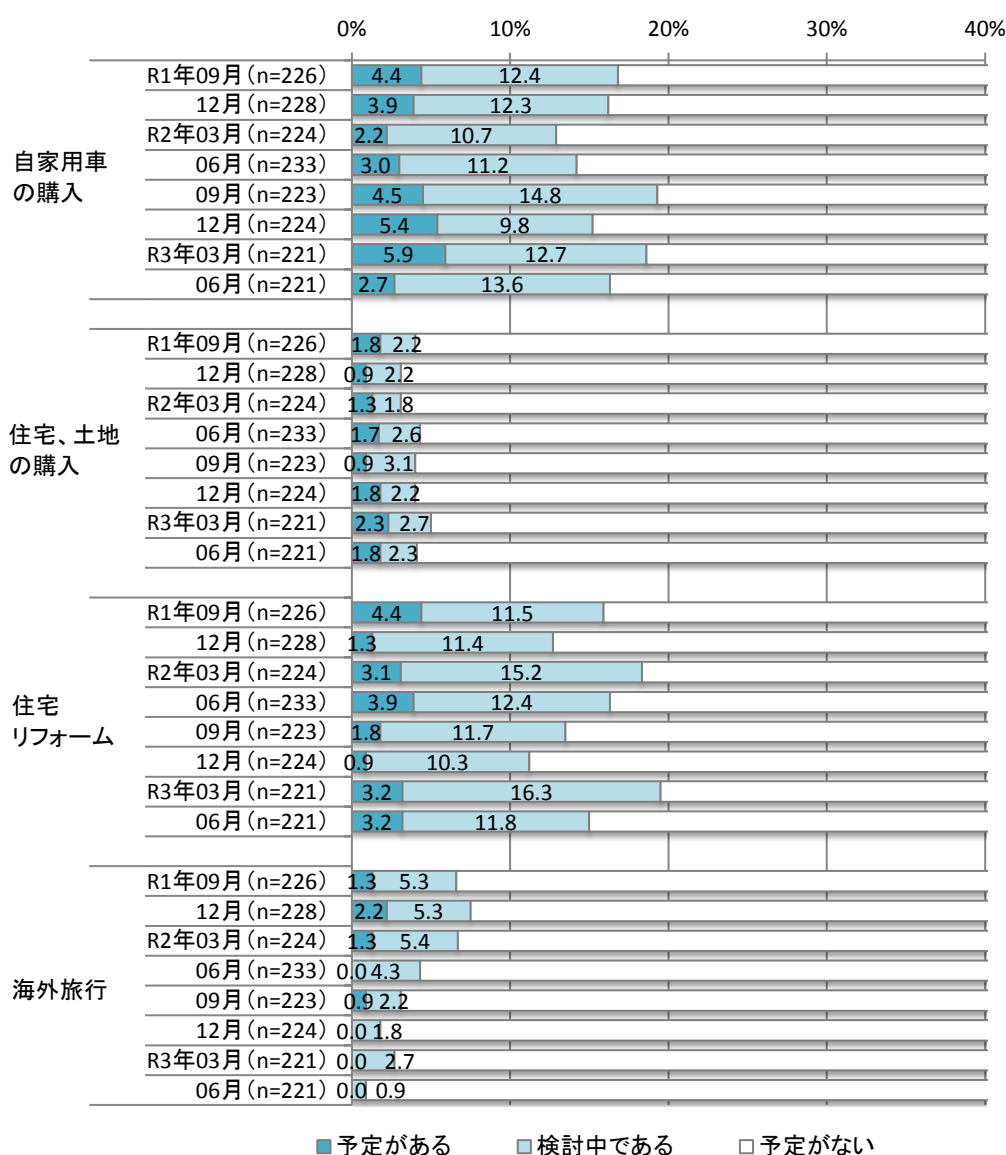
＝（「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0+「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5）－（「3. どちらかと言えば控えている」と回答した世帯の割合×0.5+「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0）

2. 支出意向（大きな買い物）の推移

大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「住宅リフォーム」では 3.2%（前期比±0.0 ポイント）、「海外旅行」では 0.0%（同±0.0 ポイント）と横這いとなり、「自家用車の購入」では 2.7%（同 3.2 ポイント低下）と 5 期ぶりに低下、「住宅、土地の購入」では 1.8%（同 0.5 ポイント低下）と 3 期ぶりに低下と、2 項目では低下となった。

大きな買い物（支出）に前向きな世帯（「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯）の割合では、4 項目すべてで低下となった。

図表 6 支出意向（大きな買い物）の推移

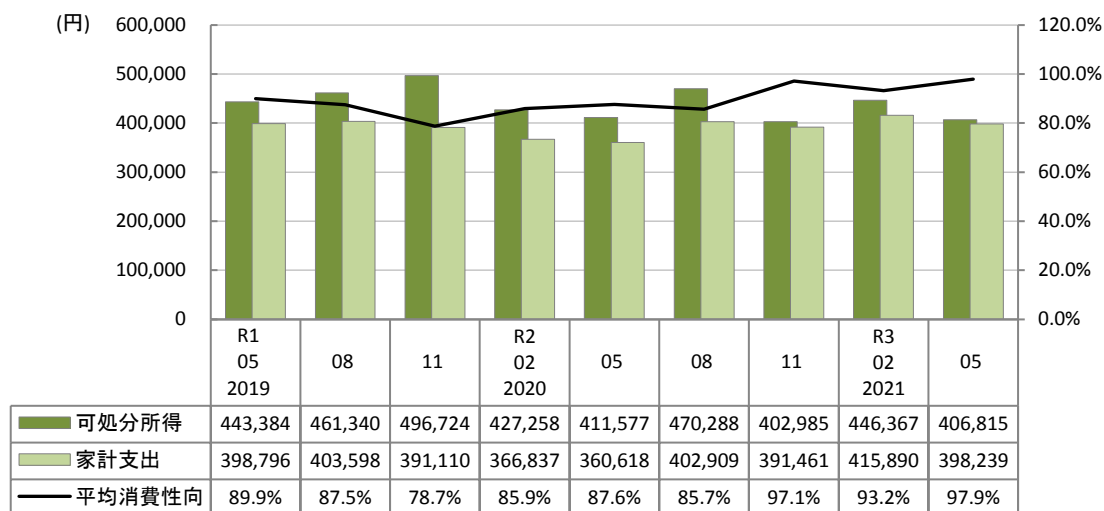


IV. 家計簿調査

図表7 令和3(2021)年5月の家計簿(221世帯)

調査年月		R2年 5月	R3年 2月	R3年 5月	(単位:円)	
調査項目					前期比	前年同期比
給与	世帯主の定例給与《支給額》	317,680	335,707	332,407	▲ 3,300	14,727
	世帯主の臨時給与《支給額》	879	7,586	12,722	5,136	11,843
	A.世帯主の給与《支給額》	318,559	343,293	345,129	1,836	26,570
	世帯員の定例給与《支給額》	118,741	101,652	108,774	7,122	▲ 9,967
	世帯員の臨時給与《支給額》	169	1,448	1,073	▲ 375	904
	B.世帯員の給与《支給額》	118,910	103,100	109,847	6,747	▲ 9,063
世帯収入合計《支給額》(A+B)		437,469	446,393	454,976	8,583	17,507
収入(手取り額)	世帯主の定例給与《手取り額》	241,570	255,021	255,644	623	14,074
	世帯主の臨時給与《手取り額》	730	5,462	9,197	3,735	8,467
	C.世帯主の勤労収入合計《手取り額》	242,300	260,483	264,841	4,358	22,541
	世帯員の定例給与《手取り額》	95,217	82,411	89,586	7,175	▲ 5,631
	世帯員の臨時給与《手取り額》	169	1,173	874	▲ 299	705
	D.世帯員の勤労収入合計《手取り額》	95,386	83,584	90,460	6,876	▲ 4,926
	世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)	337,686	344,067	355,301	11,234	17,615
	1. 公的年金給付(老齢、障害、遺族年金)	8,469	49,157	13,344	▲ 35,813	4,875
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	1,555	353	747	394	▲ 808
	3. 各種手当(児童手当、障害者手当など)	3,627	7,557	1,824	▲ 5,733	▲ 1,803
	4. 利息、株式配当、投信分配金	1,266	2,962	759	▲ 2,203	▲ 507
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	2,040	897	1,242	345	▲ 798
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	1,545	1,787	2,466	679	921
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	214	4,753	12,741	7,988	12,527
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	343	0	0	0	▲ 343
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	281	316	420	104	139
	10. 保険満期返戻金	215	4,778	226	▲ 4,552	11
	11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	199	13,846	1,561	▲ 12,285	1,362
	12. 相続、贈与、退職金	0	0	0	0	0
	13. 祝金、謝礼金、香典など	1,777	7,360	4,023	▲ 3,337	2,246
	14. 身内からの仕送り	1,099	1,989	1,810	▲ 179	711
	15. 借入れ(カードローン、キャッシング)	4,991	2,665	4,717	2,052	▲ 274
	16. その他	46,270	3,880	5,634	1,754	▲ 40,636
	E. その他収入(控除後)	73,891	102,300	51,514	▲ 50,786	▲ 22,377
	I. 収入計(C+D+E)	411,577	446,367	406,815	▲ 39,552	▲ 4,762
支出	1. 食費(飲食会費は含まない)	60,444	58,924	58,874	▲ 50	▲ 1,570
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	8,703	18,304	11,373	▲ 6,931	2,670
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	28,780	37,603	28,102	▲ 9,501	▲ 678
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	12,110	11,574	10,797	▲ 777	▲ 1,313
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリー等)	9,394	9,959	9,877	▲ 82	483
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	13,528	14,383	11,825	▲ 2,558	▲ 1,703
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	1,625	1,900	2,533	633	908
	8. 交通費2(ガソリン代)	13,901	14,871	15,268	397	1,367
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	12,899	12,741	14,568	1,827	1,669
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	23,093	23,069	22,567	▲ 502	▲ 526
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	17,228	12,467	22,938	10,471	5,710
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	2,427	2,183	2,164	▲ 19	▲ 263
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	9,020	13,749	13,576	▲ 173	4,556
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	3,443	6,715	5,616	▲ 1,099	2,173
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,200	1,761	2,150	389	▲ 50
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	5,064	14,484	13,873	▲ 611	8,809
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	1,591	6,871	10,982	4,111	9,391
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定額年金保険)	11,443	30,991	12,383	▲ 18,608	940
	19. 借入返済1(住宅ローン)	25,682	29,670	27,364	▲ 2,306	1,682
	20. 借入返済2(自動車、学資、カードローン)	11,772	10,565	11,450	885	▲ 322
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	41,254	42,470	40,375	▲ 2,095	▲ 879
	22. 身内への仕送り(学生など)	13,382	10,064	18,071	8,007	4,689
	23. 小遣い、その他	31,635	30,572	31,513	941	▲ 122
II. 支出計		360,618	415,890	398,239	▲ 17,651	37,621
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		87.6%	93.2%	97.9%	4.7%	10.3%
平均貯蓄性向(1-平均消費性向)		12.4%	6.8%	2.1%	▲ 4.7%	▲ 10.3%

図表 8 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 407 千円となり、前年同期比で 5 千円の減少となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が 23 千円増加した一方、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」が 5 千円の減少となり、これを合わせた「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 355 千円となり 18 千円の増加となった。「その他収入（控除後）」は 52 千円で 22 千円の減少となり、増減額の大きな項目をみると、「有価証券売却・解約金（株、投資信託など）」が 13 千円増加となった一方、「その他」が 41 千円減少となった。「その他」の減額の要因として、前年同時期の調査では特別定額給付金の影響と思われる一時的な増加がみられたことが挙げられる。

支出面では支出合計が 398 千円で前年同期比 38 千円増額となった。増減額の大きな項目を見ると、「金融商品 1（株、国債、外貨、金など）」と「高額商品（パソコン、家電、家具、インテリアなど）」がともに 9 千円の増加となった一方、大きく減額した項目はなかった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 97.9%（前年同期比 10.3 ポイント上昇）となった。

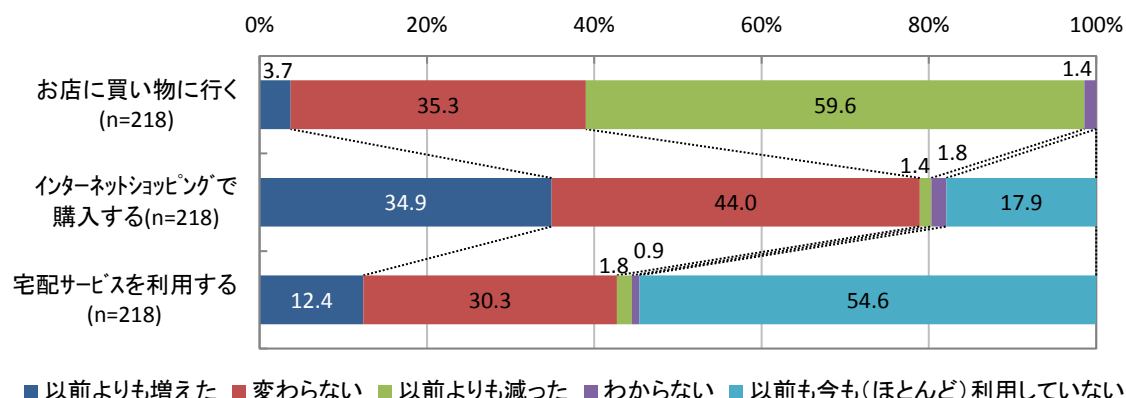
V. 特別調査

1. 新型コロナウイルス感染症の生活への影響について

(1) 生活必需品の購入や入手頻度の変化

今から1年前（新型コロナウイルス感染拡大初期）と現在を比較して生活必需品の購入や入手頻度の変化について尋ねたところ、「お店に買い物に行く」では「以前よりも減った」の割合が59.6%と6割近くを占め、「以前よりも増えた」は1割未満の低い割合となった。一方、「インターネットショッピングで購入する」では「以前よりも増えた」が34.9%、「宅配サービスを利用する」では12.4%となり、「以前よりも減った」はともに1割未満の極めて低い割合となった。

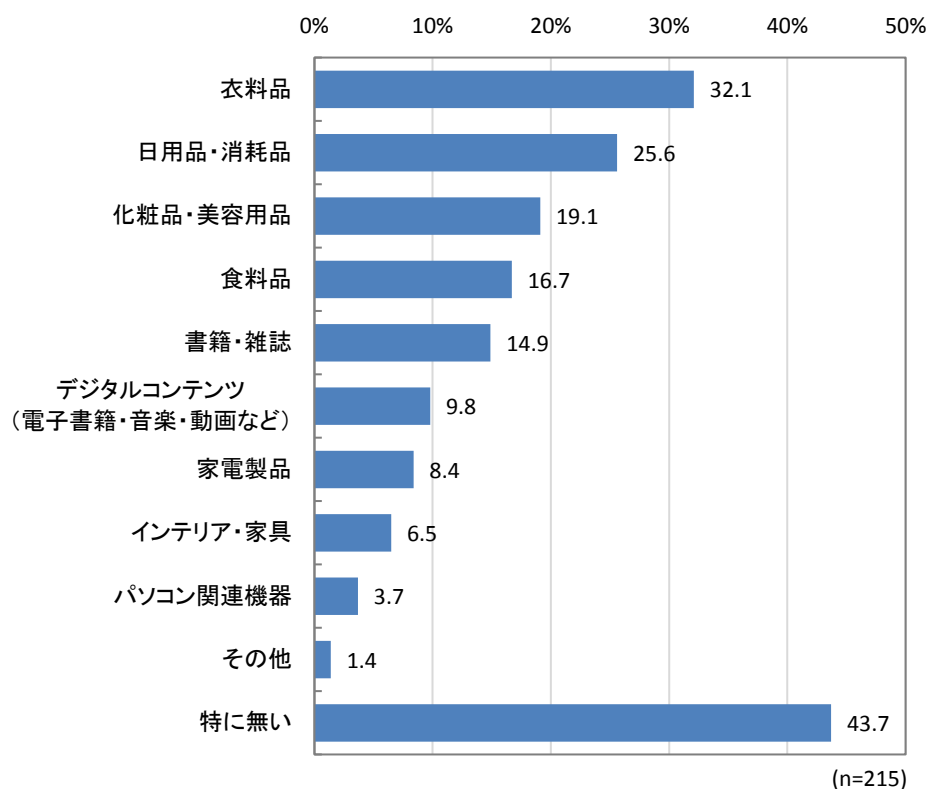
図表 9 生活必需品の購入や入手頻度の変化



(2) インターネットショッピングによる購入金額の変化

今から1年前（新型コロナウイルス感染拡大初期）と現在を比較してインターネットショッピングによる購入金額が増えたものについて尋ねたところ、「特にない」と答えた世帯の割合が43.7%と最も高くなった。一方、購入金額が増えたという回答をみると、「衣料品」の割合が32.1%で最も高く、次いで「日用品・消耗品」が25.6%で続き、以下は「化粧品・美容用品」（19.1%）、「食料品」（16.7%）、「書籍・雑誌」（14.9%）などの順となった。

図表 10 インターネットショッピングでの購入金額が増えたもの（複数回答）



VI. 調査の概要

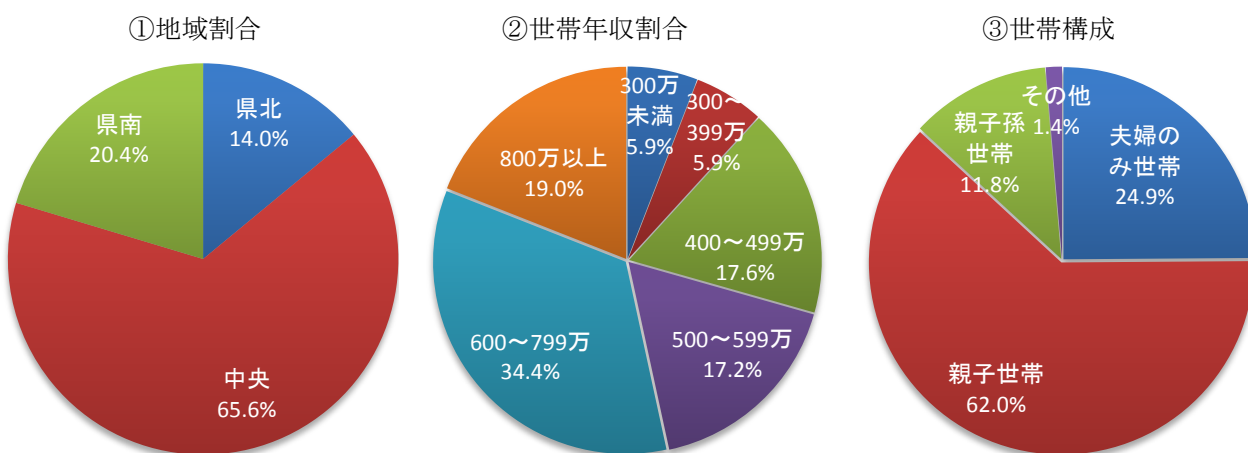
1. 調査の目的

秋田県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容

- ◆ 専属モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：238 世帯 有効回答数：221 世帯 回答率：92.9%

3. 回答モニター属性



4. 調査の対象者

秋田県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

5. 調査期間

令和 3（2021）年 6 月 1 日（火）～15 日（火）

6. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県 北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中 央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県 南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研 地域政策コンサルティング部（秋田事業所） 後藤／佐藤

秋田事業所

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 3F
Tel：018-837-1727 Fax：018-834-5508

山形支社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F
Tel：023-626-9017 Fax：023-626-9038 E-mail：kenkyuu@fir.co.jp
URL：https://www.fir.co.jp/